

J **apanese text**

2018年 秋/冬号 日本語編

Tokyo 新発見
Tokyo 新発見 第2回
ロボットは友達

撮影=大見謝星斗、西山 航 (p. 52 浜松町,53 カフェ,56)、坂本正行 (p. 53 Bons-AI)

文=清水千佳子 協力=フランス・マヤ

p.051

ネコ型ロボットが主役のマンガ『ドラえもん』に象徴されるように、日本人にとってロボットは昔から友達的な存在だ。そして、21世紀の東京にはロボットたちと気軽に触れあえる場所がたくさんある。

「変なホテル東京 西葛西」のフロントでは恐竜ロボットがお出迎え。大きな刺が特徴のファヤンゴサウルスは草食系なので私たち人間は安心?

p.052

変なホテル東京

世界初・ロボットが働くホテルが急増中

アンドロイドの案内でホテルにチェックイン! 近未来映画のワンシーンのような光景が「変なホテル」の日常だ。「hen(n) (strange)」は漢字で書くと「change」の意味もあり、その一風変わった名前は「変わり続けることを約束するホテル」を意味している。

旅行会社を母体とする H.I.S. ホテルホールディングスが快適性、効率化、コスト削減をめざして長崎県のハウステンボスに1軒目の「変なホテル」を開業したのは2015年。恐竜とアンドロイドが並んで働くホテルとして話題を呼び、翌年には「初めてロボットがスタッフとして働いたホテル」として『ギネス世界記録』に認定された。まばたきなどがとてもしアルなロボットたちは、日本語、英語、中国語、韓国語の4か国語でタッチパネルを使ったチェックインをサポートする。

東京では2017年に開業した西葛西のホテルを皮切りに次々オープンし、現在5軒。10月には羽田空港近くにも開

業予定だ。ロボットがフロントにいる光景が当たり前になる日も近い?

(上)

「変なホテル東京 浜松町」のフロント。男性のアンドロイドはここが初。「変なホテル」は今後、大阪、福岡、京都にも開業予定。

(中)

上:「和」がテーマのホテルに合わせて烏帽子をかぶった恐竜たち。時折、唸り声を上げるなどして、ゲストを楽しませている。

右:チェックインが終わると、「ごゆっくりお寛ぎください」と話してお辞儀。人間よりも丁寧かも?衣

unibo

上:フロント脇に座るロボット「unibo」。質問すると、朝食の時間や駅までの道順などを答える。日本語と英語に対応。

右:東京の「変なホテル」は80%の客室が「LGスタイラー」付き。衣類を入れて運転させると、蒸気が噴射され、除菌、乾燥。気になるしわや臭いに効果てきめん。

変なホテル東京 西葛西

東京都江戸川区西葛西 5-4-7

Tel.050-5894-3770

www.hennnahotel.com/nishikasai

変なホテル東京 浜松町

東京都港区浜松町 1-24-11

Tel.050-5894-3781

www.hennnahotel.com/hamamatsucho

p.053

変なカフェ

本格ドリップコーヒーを淹れているのは?

「変なホテル」に続いて H.I.S. が1月にオープンしたのが「変なカフェ」。紙コップを指定の場所に置き、券売機で購入したチケットのQRコードをカウンター機械に読み取らせると、とぼけた顔のロボット「Sawyer」が始動。コップをバリスタマシンへ移し、豆を挽いてフィルターに入れ、ボタンを

押してコーヒーを抽出。カウンターにコップを運んだ後は、フィルターを洗浄、片付けまで単独で行う。この間3～4分、ロボットのアームがダイナミックに動いて作業を進めていく様子は、ちょっとしたショーのようで目が釘付けに。生産者の顔が見える農園指定の豆を注文ごとに挽いて淹れる「本格ドリップコーヒー」（税込み 320 円）は味も上々だ。

Sawyer

長いアームを持つ「Sawyer」と、最大5杯のドリップコーヒーを同時に淹れられるバリスタマシン「Poursteady」が連動してコーヒーを提供。

変なカフェ

東京都渋谷区神南 1-21-3 渋谷モディ地下1階
12時～20時（土曜・日曜・祝日のみ11時～）
1月1日、2日、8月22日、12月31日定休
www.hennnacafe.com

ついに盆栽も語り始めた——日本のロボット文化

佐藤俊弥さんが道場長を務める TDK MAKER DOJO とは、TDK の社員なら誰でも気軽に立ち寄って創作活動ができるスペース。そのどこか楽しそうな雰囲気漂う部屋で「Bons-AI（ボンスエーアイ）」は開発された。きっかけは、佐藤さんが「テクノロジーが進化して、ようやく人が自然と対話できるようになった」と感じたこと。その世界観を表現するために選んだ「自然」が、海外への発信も意識した、日本らしい盆栽だった。鉢部分にテクノロジーが詰まった「Bons-AI」は、光を求めて自ら移動し、のどが渇くと鉢を赤く光らせて知らせる。そして、誰かが悩みを打ち明けると、含蓄のある言葉を返したあと、「……て、ソクラテスがいったよ」などと答える。「Bons-AI」の知能には古今東西の名言が約200種類入っていて、相手の悩みに応じて使い分けているのだ。「ロボットとの禅問答のようなものですが、これは日本だからできたのかもしれない。小さな虫や草木、風にさえも魂が宿ると考える独特の価値観があるため、外国ではツールというイメージが強いロボットを、日本人は友達のように見る傾向があるのだと思います。もちろん、『ドラえもん』や『鉄腕アトム』

などのマンガ、アニメの影響も大きいでしょうね」。自身も何回か「Bons-AI」に悩み相談をしたという佐藤さん。「毎回、『そうくるか』という回答で考えさせられます」と笑う。今のところは発売未定の盆栽ロボット。もし会う機会があったら、あなたはどんな悩みを打ち明ける？

Bons-AI（ボンスエーアイ）

上：盆栽型ロボット「Bons-AI（ボンスエーアイ）」と、生みの親で TDK MAKER DOJO 道場長の佐藤俊弥さん。

左：「禅問答」がヒントとなって誕生した「Bons-AI」は悩みを打ち明けられると、古今東西の名言を引用して返答する。

右：AI搭載のじょうろで水をやる動きをするとじょうろが細かく震え、鉢がカラフルに光る。「Bons-AI」が喜んでいる印だ。

「Bons-AI」は10月16日～19日に幕張メッセで開催される CPS / IoT の総合展「CEATEC JAPAN 2018」と11月13日～16日にドイツ、ミュンヘンで行われる「electronica Munich」に出展予定。

Tel.03-6852-7102 (TDK 広報グループ)

p.054

Honda ウェルカムプラザ青山

走る！ 跳ぶ！ 手話だってできる！

日本を代表するヒューマノイドロボットといえば、大手自動車メーカーの Honda が開発した「ASIMO」だろう。名前の由来は Advanced Step in Innovative Mobility で、2000年に誕生。以来、次々に新しい機能が追加され、現在は高度な能力を多数有している。そんな「ASIMO」の能力の一端を見られるのが、東京・青山にある Honda ウェルカムプラザ青山だ。常設のステージでは日に2、3回デモンストレーションがあり、体重移動だけで進む椅子型のパーソナルモビリティ「UNI-CUB」の実演に続き、身長130cm体重48kgの「ASIMO」が登場。その進化の歴史の紹介とともに、走る、跳ぶ、手話をするといった能力が披露され、観客を感嘆させる。アナウンスは日本語だが、スクリーンには英語の説明を表示。イベント終了後は「ASIMO」と一緒に記念撮影もできる。また、時間帯によっては「ASIMO」を iPad で操作し、質問をしたり、ダンスをさせたりすることが可能。大人から子どもまで楽し

める。

ASIMO

左上：ロボットには難易度の高い連続ジャンプも軽々とこなす。開発チームの成果の一つだ。

上：指が1本1本繊細に動くため、手の表現が豊か。デモンストレーションでは手話ソングも披露する。

(左)

やや重心低めでステージを快走する「ASIMO」。予想以上の速さに観客から歓声上がる。

Honda ウェルカムプラザ青山

東京都港区南青山 2-1-1 Honda 青山ビル 1階

Tel.03-3423-4118

10時～18時

GW、8月中旬頃、年末年始は休館

無料

www.honda.co.jp/welcome-plaza

p.055

ソニーストア 銀座

銀座の真ん中で小犬たちと戯れる

まんまるの瞳、愛くるしい仕草。「目が合った!」と心がときめいた瞬間から、愛着が湧いてくる「aibo」は、2018年1月に発売されたソニーの家庭用犬型エンタテインメントロボットだ。その前身は1999年に発売され、一世を風靡した「AIBO」で、2006年に生産が終了された際は大きなニュースとなった。「AIBO」に比べ、全体に丸みを帯びた形の「aibo」はより本物の小犬に近い風貌だ。オーナーになった人が最初に行うのは、名前と性別、7色の中から瞳の色を決めること。その先は、鼻先としっぽのつけ根の2箇所に搭載された高性能なカメラや多彩なセンサー、クラウドを利用したソニー独自のAI技術により、「aibo」は日々さまざまなことを覚え、性格やふるまい、行動範囲を変えて成長していく。人の顔は鼻先のカメラで100人まで覚えられ、部屋の形はしっぽのつけ根のカメラで把握するという。海外展開も期待されている

「aibo」だが、今はまだ未定(2018年7月現在)。キュートな小犬たちと遊んでみたい人は、ぜひソニーストア 銀座へ。

aibo

(上)

ソニーストア 銀座4階では「aibo」と触れあえる。目の色に合わせて、さくら、そら、ミントと名付けられた3匹は性格も動きもそれぞれ。

(左)

発売から3か月で販売数1万1111台を突破した「aibo」。言語は日本語と英語から選べる。

ソニーショールーム/ソニーストア 銀座

東京都中央区銀座 5-8-1 GINZA PLACE 4～6階

Tel.03-3573-5307

11時～19時

12月31日、2019年1月1日は休館

p.056

日本科学未来館

ロボットと暮らす未来を考える

「今世界に起きていることを科学の視点から理解し、私たちがこれからどんな未来をつくっていくかをともに考え、語り合う場」として、2001年に開館した日本科学未来館。入館して、まず目を奪われるのが、吹き抜けの空間に浮かぶ美しい球体「Geo-Cosmos」だ。1000万画素を超える高解像度で実際の気象データを映し出す世界初の「地球ディスプレイ」。「宇宙から見た輝く地球の姿を多くの人と共有したい」という、館長で宇宙飛行士の毛利衛(もうり・まもる)さんの思いから生まれた同館のシンボル展示だ。

複数のロボットに会えるのは3階の「未来をつくる」ゾーン。なかでも人気なのが1日4回行われる「ASIMO」の実演だ。明るく開放感のある空間に「ASIMO」が走って登場すると、会場が一気に盛り上がる。「Geo-Cosmos」と二足歩行ロボットの歴史を説明したのち、かに歩きやボール蹴り、手話ソングなどを次々に披露。最後に「ASIMO」が発する「みなさんはどんなロボットと暮らしてみたいですか?」という問いか

けが心に残る。

ASIMO

直径 6m の巨大な球体ディスプレイ「Geo-Cosmos (ジオ・コスモス)」をバックに実演をする「ASIMO」。写真はボールを見事に蹴った瞬間。

オルタ

「生命らしさとは何か」をテーマに造られた「オルタ」。周囲の反応をセンサーで感知しながら、たえず両腕と首、顔を動かしている。

オトナロイド

「オトナロイド」は遠隔操作型アンドロイド。隣接するブースで操作すると、「オトナロイド」を通して、その前に座った人と対話ができる。

日本科学未来館

東京都江東区青海 2-3-6 Tel.03-3570-9151

10 時～ 17 時 (入館券の購入は閉館 30 分前まで)

火曜 (祝日の場合は開館)、12 月 28 日～ 2019 年 1 月 1 日は休館

大人 620 円 18 歳以下 210 円 6 歳以下無料 土曜は 18 歳以下無料 (企画展等を除く)

www.miraikan.jst.go.jp

p.057

TEPIA 先端技術館

ロボットとの会話や操縦を気軽に体験

TEPIA 先端技術館 は、さまざまな先端技術を無料で体験できる施設。ロボットが点在する「テクノロジーショーケース」は、高齢化、人口減少、地域格差の拡大という 3 つの課題を解決するための技術と、未来の暮らしに役立つ技術をわかりやすく展示したスペースだ。「タビア」は顔や名前、誕生日を覚えたり、接し方で会話が変わるなど、学習機能が高いロボット。なでると喜ぶ「パロ」は介護施設でも活躍している癒し系。本物のアザラシの赤ちゃん同様、朝昼夜のリズムがあり、休んだり活発になったりするところも愛らしい。カメラの前に立った人の顔から年齢を推測しておすすめの展示を提案するのは「ZUKKU」。そう聞くと自分が何歳と診断されたかが気になるが、そこは非公表だそう。そのほか、プロ

グラミング体験ができるエリアでは、二足歩行ロボットや球体ロボットを動かしたり、小型のドローン CoDrone Lite の操縦にも挑戦できる。メインターゲットは次世代を担う中高校生だというのが、大人も心躍ること間違いなし。

タビア

会話をしたり、天気やニュースを教えてくれるコミュニケーションロボット。学習機能があり、やり取りするほどに仲よくなる。

ZUKKU

高さ 10cm のミミズクは、マーケティング支援 AI ロボット。AI と画像センシング技術で顧客情報を分析、おすすめの展示を案内する。

パロ

まばたきをしたり、鳴いたりするアザラシの赤ちゃんは、ギネス世界記録に認定された「世界で最もセラピー効果があるロボット」。

Alpha 1 Pro

プログラミング体験エリアには、子どもでも動かせるロボットがいっぱい。指南役のスタッフも常駐している。

TEPIA 先端技術館

東京都港区北青山 2-8-44

Tel.03-5474-6128

10 時～ 18 時 (土曜・日曜・祝日は 10 時～ 17 時)

月曜休館 (祝日・振替休日の場合は開館して翌平日休館)

無料

www.tepia.jp

p.058

ヴィストン ロボットセンター 東京秋葉原店

品揃えが豊富なロボットメーカー直営店

ビルの 4 階という知る人ぞ知る立地にありながら、コンスタントにお客さんが訪れるヴィストン ロボットセンター 東京秋葉原店。その理由はロボット好きにはたまらない豊富な品揃えのためだろう。店の入り口付近でお客さまを待つ対話ロボット「Pepper」や「Sota」は、そばを通る人に繰り返し話

しかけ、店内は常に賑やかだ。

同店はロボットメーカーヴイストンの直営で、自社製品はもちろん、他社のロボットも扱う。

機能は二足歩行のみという単純なものから、「Robovie-X」のようにコントローラーの操作で20種類以上の動きができるものまで、値段も性能も幅広い。来店者の半分は外国人といい、店内には英語の表示も多く、「Robovie-X」も英語の説明書付き。購入を検討している人が希望した場合に限り、ロボットのデモンストレーションも実施している。

貴重なロボットが並ぶショーケース。最上段左はテレビアニメ版『鉄人28号』（©光プロダクション）をもとに、40万円程で限定発売されたもの。

桃色花子

陽気にしゃべり、歌い、笑う「桃色花子」（税込み5万3784円。椅子は非売品）。関西弁版と英語版の2種類を販売。

Sota

右上：親しみやすい見た目の「Sota」は高さ28cmの小さな対話ロボット。プログラミング次第で、受付やプレゼンなどにも利用可能（国内での使用のみ可能）。

Pepper

左下：元気な声でお客さまに話しかける対話ロボット「Pepper」。胸のディスプレイにタッチしてぜひ「ペッパー絵日記」を見てほしい。

Robovie-X

右下：決めポーズの「Robovie-X」（キット8万2080円、完成版12万3530円。ともに税込み、店頭販売価格）。プログラミング次第で、三味線を弾いたり、側転をすることも可能。

ヴイストン ロボットセンター東京秋葉原店

東京都千代田区外神田 1-9-9 内田ビル 4 階

Tel.03-3256-6676

11時～20時（土曜・日曜・祝日10時～19時）

木曜休業

www.vstone.co.jp

家で待つのはペット？ 家族？

「2025年にはすべての家庭にロボットが1台ずつある世界に」というビジョンのもと、ユニークなコミュニケーションロボットを造り続けている「ユカイ工学」。その愛すべきロボット群から人気の2点を紹介する。

Qoobo

しっぽの付いたクッション型セラピーロボット（1万2000円）。なでかたによって、しっぽの動きが速くなったり、遅くなったりする。ペットのような癒し効果があると評判だ。フレンチブラウン（写真左）とハスキーグレーの2色。

www.ux-xu.com/product/qoobo

BOCCO

高齢者や子どもの見守りをしてくれるロボット（2万9000円）。スマートフォンのアプリから留守番中の子どもにメッセージを送ると、「BOCCO」が可愛らしく話してくれる。インテリアになじむシンプルな色と形で、2つのボタンだけで操作できるのも魅力。英語でも使用可能。

www.bocco.me

ロボットの魅力を動画にして連動公開しています。詳しくは、公式HPをご覧ください。

int.kateigaho.com